

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	181	人	社会	180	人	数学	179	人
	理科	180	人	英語	179	人			

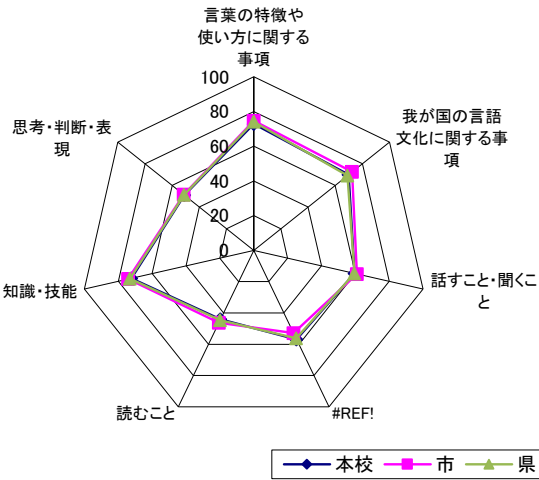
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.9	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	69.9	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	59.5	60.9	59.5
	#REF!	56.9	52.8	56.2
	読むこと	44.1	46.2	44.5
観点	知識・技能	72.3	74.2	73.1
	思考・判断・表現	51.1	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

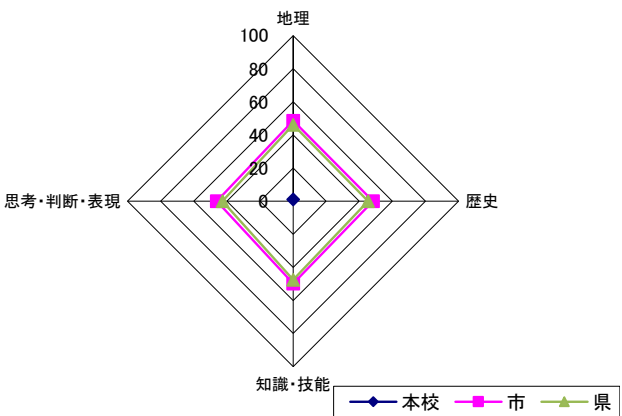
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県平均より1.2ポイント低く、市平均より1.8ポイント低い。 ○漢字の読み取りの問題に関しては、第1学年までに学習した漢字を正しく読むことができています。 ●漢字の書き取りの問題に関しては、小学校で学習した漢字が総じて書けておらず、無解答率も高い。	・小学校で学習した漢字の書き取りを長期休みの宿題にし、定着を図る。 ・進出漢字や間違えやすい漢字については、正しく書けるように書くときのポイントについて触れ、部首やはねる箇所などを意識させ、丁寧に指導する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県平均より0.8ポイント高く、市平均より2.6ポイント低い。 ○漢字の行書の書き方については理解している生徒が多い。 ●歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す方法についての理解が十分でない。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す方法について、繰り返し復習し、練習問題に取り組みさせる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県平均と同じポイントで、市平均より1.4ポイント低い。 ○話題や展開を捉えながら話し合い、考えをまとめる問題の正答率が高い。 ●どの問題も総じて無解答率が高い。	・音声を聞き取って選択式で答える問題の他に、記述式の問題にも取り組ませる。 ・聞き取りメモの取り方を提示し、必要に応じてメモを取りながら話の内容を聞き取る演習を行わせる。
書くこと	平均正答率は県平均より0.7ポイント高く、市平均より4.1ポイント高い。 ○条件に従って文章を書く問題に関しては、類型外の解答も少なく、正答率が高い。 ●文章を書くことに対して苦手意識が高いため、無解答率が高い。また、ただしく条件に従えていない解答も多い。	・無解答をなくすように意識させて、普段の単元テストなどを行わせる。 ・短い字数で書く課題を書かせ、徐々に長い字数で書く課題にも慣れさせていく。 ・長い文章を書かせるときには、文章構成を考えさせてから、作文に取り組ませる。
読むこと	平均正答率は県平均より0.4ポイント低く、市平均より2.1ポイント低い。 ○根拠を明確にして考える問題の正答率は市平均を大きく上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して内容を解釈する問題に関する正答率が低い。	・記述式の問題を解く機会を普段から増やす。また、同時に解き方や正しい解答のポイントなどを説明する。 ・過去問に一度は取り組み、問題の形式に慣れさせる。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	48.0	48.6	46.2
	歴史	46.4	48.3	45.3
観点	知識・技能	50.5	49.8	47.5
	思考・判断・表現	41.3	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

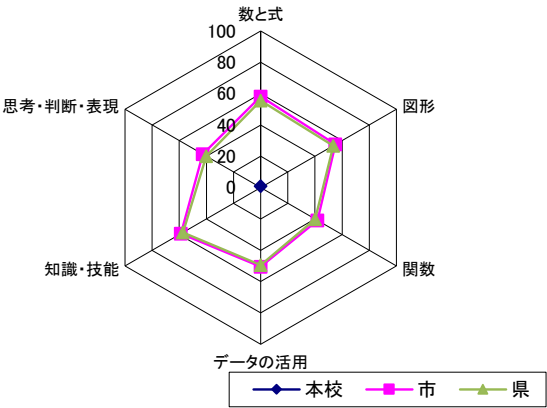
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は県平均より1.8ポイント高く、市平均より0.6ポイント低い。 ○三大洋と六大陸の名称と位置関係の理解度が高い。 ○資料から貿易の特徴や原油の国際価格の変化を読み取り、表現する問題の正答率が高い。 ●EU加盟国間の人々の理由について資料から考察し、表現する問題で正答率が低い。 ●ブラジルの農業の課題について、複数の資料を読み取り、表現する問題の正答率、無回答率がともに高い。	・記述に対する苦手意識をなくすため、ICT(フォームやスクールタクトなど)を活用して、練習する機会を設ける。 ・複数の資料を用いて、関連付けするような課題を授業の中で取り入れていく。 ・今後も、授業で様々な地図を用いて、世界の国々や地域区分などを読み取らせる活動を継続し、資料活用を技能を高めさせていく。
歴史	平均正答率は県平均より1.1ポイント高く、市平均より1.9ポイント低い。 ○中世からの問題の正答率は比較的高い。 ○全体的に知識を問う問題で、正答率が高い。その点を踏まえると、知識の定着はある程度なされていると考えられる。 ●全体的に、考えて記述する問題の正答率が低い。 ●古代の問題で、正答率が低い。 ●出来事を古い順に並べる問題で、正答率が低い。	・既習事項との結び付きを意識した授業づくりを行う。 ・記述に対する苦手意識をなくすため、ICT(フォームやスクールタクトなど)を活用して、練習する機会を設ける。 ・出来事の時系列を理解させるために、年表を活用したり、因果関係を考えさせるようにする。 ・各出来事や法令などについて、「なぜ」「どうして」と問いかけることで、出来事や法令の背景を考えさせ、考えを深める機会を多く設ける。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	55.1	58.2	55.5
	図形	54.0	55.1	53.5
	関数	36.5	41.9	40.2
	データの活用	48.7	50.5	49.4
観点	知識・技能	55.7	58.8	57.3
	思考・判断・表現	40.0	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

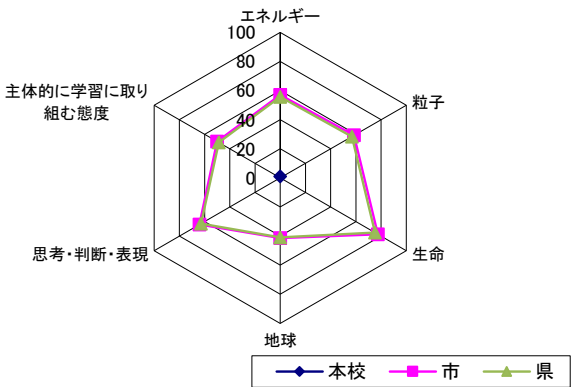
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は県平均より0.4ポイント低く、市平均より3.1ポイント低い。 ○計算の工夫について、正しいものを選ぶ問題の正答率が県、市より高い。 ●累乗、1次方程式の解き方などの理解が県や市を下回っている。	・正の数、負の数に関する計算はよくできているので、基礎の定着を継続していく。 ・1次方程式の解き方の理解を深めるため、手順を繰り返し覚えるとともに、解の意味について丁寧に確認していく。
図形	平均正答率は県平均より0.5ポイント高く、市平均より1.1ポイント低い。 ○ねじれの位置関係や、立体の側面積の正答率が県、市平均を上回った。 ●垂線の作図、おうぎ形の弧の長さの正答率が県、市平均を下回っている。	・基本的な作図の手順をおさえ、繰り返しかくことで定着を図る。 ・立体の体積や側面積などを求める技能は、継続して高めていけるようにする。 ・ねじれの位置や展開図などはデジタル教科書を用いて一定の効果が出ているため、継続して活用していく。
関数	平均正答率は県平均より3.7ポイント低く、市平均より5.4ポイント低い。 ○与えられた考え方をもとに、正しいものを選ぶ問題の正答率がわずかに県平均を上回った。 ●与えられたグラフから速さを求める問題の正答率が、県平均よりも10.7ポイント低い。 ●どの問題においても無回答率が県、市より高い。	・比例、反比例の表、式、グラフの関係性について理解を深めていけるよう支援していく。 ・グラフのどの部分が何を表しているのか、問題文との対応を明確にできるように工夫する。
データの活用	平均正答率は県平均より0.7ポイント低く、市平均より1.8ポイント低い。 ○累積度数を求める問題の正答率が高い。 ●データの傾向について、相対度数を使って説明する問題の正答率が県、市平均を下回っている。	・データの活用の理解が深まるよう、実験などを通して具体的な事象を用いながら指導する。 ・度数分布表やヒストグラムにおける代表値のについての理解、またそれを使った説明の機会を設けていく。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	53.7	57.0	55.7
	粒子	53.2	58.6	56.9
	生命	73.8	77.5	75.2
	地球	41.4	41.4	40.9
観点	#REF!	60.1	64.1	62.8
	思考・判断・表現	48.0	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

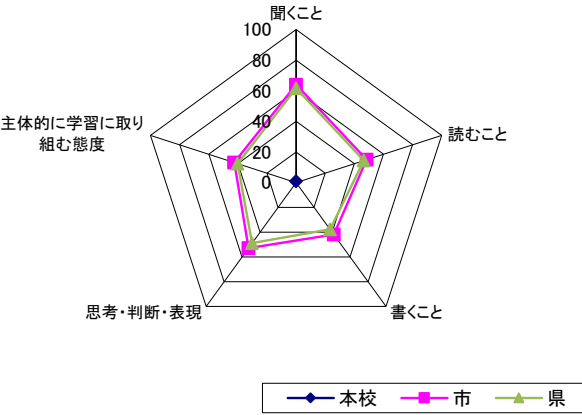
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は県平均より1.8ポイント、市平均より4.3ポイント低い。 ○「力の働き」の問題で、ばねののびと力の大きさは比例していることについて理解できている。 ●「光の性質」の問題で、鏡に映った像の範囲、光の反射の道すじについて課題が見られる。	・「光」「音」「力」について、身近な物理現象と結び付けて理解を深めていく。 ・小テスト(一問一答式)を定期的の実施し、基礎的事項の定着を図っていく。
粒子	平均正答率は県平均より3.7ポイント、市平均より5.4ポイント低い。 ○「水溶液」の問題で、質量パーセント濃度を求める式について理解できている。 ●「物質のすがた」の問題で、気体の性質について課題が見られる。	・実験器具の使い方や注意点については、実験・観察の際に繰り返し確認し、自然に行えるまで指導を徹底をしていく。 ・小テスト(一問一答式)を定期的の実施し、基礎的事項の定着を図っていく。
生命	平均正答率は県平均より1.4ポイント、市平均より1.4ポイント低い。 ○「植物の特徴と分類」の問題で、葉脈の特徴、植物の分類についてはよく理解できている。 ●「動物の特徴と分類」の問題で、肉食と草食の特徴、無脊椎動物の分類についてやや課題が見られる。	・植物や動物の分類について、積極的にICT機器を活用した調べ学習で特徴を再確認し、意欲を高めていく。 ・小テスト(一問一答式)を定期的の実施し、基礎的事項の定着を図っていく。
地球	平均正答率は県平均より0.5ポイント高く、市平均とは同値。 ○「地震」の問題で、地震のゆれや震度、初期微動継続時間と震源からの距離について正答率が高い。 ○「地層」の問題で、地層のつながり、柱状図について正答率が高い。 ●「火山」の問題で、火成岩のつくりとでき方についてやや課題が見られる。	・火成岩や堆積岩の特徴を一覧表にまとめ、基礎基本の確認を進めていく。 ・震源からの距離と時間との関係のグラフでは、見方のポイントを押さえ、計算問題に繋げていく。 ・小テスト(一問一答式)を定期的の実施し、基礎的事項の定着を図っていく。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	65.2	64.0	61.6
	読むこと	46.7	48.4	46.6
	書くこと	42.0	42.0	37.8
観点	#REF!	52.3	52.9	48.9
	思考・判断・表現	43.7	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は県平均より3. 6ポイント、市平均より1. 2ポイント高い。 ○無回答率が0である。 ○絵を適切に表している英文を選ぶ問題の正答率が高い。 ●対話の内容を聞き取り、適切に回答しているものを選ぶ問題の正答率が低い。	・クラスルームイングリッシュを使った授業を引き続き行い、英語を聞き取ることに慣れさせる。 ・聞き取るだけでなく、適切に回答する力を高めるために、英語を使って生徒同士がコミュニケーションをとる活動や、ALTとのスピーキングテストを多く取り入れていく。
読むこと	平均正答率は県平均より0. 1ポイント高く、市平均より1. 7ポイント低い。 ○英文を読んで概要を理解し、英文にふさわしいタイトルを選ぶ問題の正答率は、市平均を2. 9ポイント上回っている。 ●全体的に正答率が低い。 ●対話とグラフから必要な情報を読み取り、適切な答えを選ぶ問題の正答率は、市平均を5. 8ポイント下回っている。	・短い文章の概要を捉えることはできているので、教科書の本文の概要を捉える活動を今後も継続して行う。 ・グラフの読み取りなど、知識・技能を問う問題の正答率が低い。毎時単語テストを行い語彙の定着を目指しているが、既習の単語についても本文の中でその都度確認を行うなど、繰り返し学習できるよう工夫していく。
書くこと	平均正答率は県平均より4. 2ポイント高く、市平均と同じである。 ○英文を正しい語順で書く問題の正答率は、疑問文も肯定文も市の平均を上回っている。 ○●日常的话题に関して読んだことについて、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く問題の正答率は、全て市の平均を上回っているが、無回答率も高い。 ●be動詞や一般動詞の三人称単数現在形の肯定文を書く問題の正答率が低い。	・まとめの活動として自分の考えを英語で表現する活動を取り入れるなど、まとまりのある文章を書く時間を継続して作ることで、書くことに慣れさせていきたい。 ・授業で多くの文章に触れる中で、既習の文法事項に関しても全体で確認し、復習する場面を作る。

宇都宮市立姿川中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○●「家で学校の宿題をしている」の肯定的割合は94.4%で市の平均を2.2ポイント、「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的割合は55.4%で市の平均を8.8ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的割合は73.2%で市の平均を2.1ポイントそれぞれ上回るなど、家庭での学習に意識が高いことが分かる。学校全体で1日1ページの自主学習に取り組むことなどによる家庭学習の習慣化が定着しつつある。しかし、「学校の授業以外に、どれくらい勉強しますか」で、平日に2時間以上する割合は19.6%で市の平均より6.5ポイント、休日に2時間以上する割合は7.9%で市の平均より6.9ポイントそれぞれ下回っており、学習時間の確保に課題が見られる。優先順位を考え時間の確保に努めるよう指導をしていきたい。	
●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的割合は64.8%で市の平均より6.1ポイント、「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」の肯定的割合は27.4%で市の平均より8.7ポイント下回っている。授業中におけるICT機器を利用した調べ学習の機会を数多く設定し、課題解決に積極的に努めるように繋げていきたい。	
○「毎日の生活が充実していると感じている」の肯定的回答は90.0%で市の平均を2.2ポイント、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答は83.8%で市の平均を4.6ポイント、「自分の考えを発表する機会が与えられている」の肯定的回答は94.4%で市の平均を4.9ポイントそれぞれ上回っている。学級内においてある程度自分の意見を話すことができ、毎日の生活に充実を感じている生徒が多く、今後も存在感を感じられる学級経営を意識していきたい。	
○「授業の中で、目標が示されている」の肯定的回答は97.8%で市の平均を1.6ポイント、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的割合は87.1%で市の平均を6.9ポイントそれぞれ上回っている。「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業の取組が成果に現れている。また「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的割合は81.5%で市の平均を8.9ポイント上回っており、生徒と教師の距離間を意識しつつ、わからないことを素直に確認できる環境をこれからも継続していきたい。	
●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)」に対して、2時間より以上と回答した生徒の割合は52.5%で市の平均を5.1ポイント上回っている。4時間以上の割合もかなり多く、学習時間の確保に影響がでていると考えられる。保護者会や学級懇談等で、家庭での時間の使い方についての啓発を行ってきたい。	
●「自分には、良いところがあると思う」の肯定的割合は76.5%で市の平均を3.4ポイント下回っている。毎日の学校生活の中で、「認めて、褒めて、励まして」の3指導を通して、自己肯定感を感じられるような場面を増やし、前向きに生活できるよう今後も支援していきたい。	

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業に向かう基本的な学習態度の定着	授業2分前着席、基本姿勢、「はい」という返事、話の聞き方等、授業に集中させるための基本的な学習態度について指導している。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した生徒の割合が83.8%で、市平均より4.6ポイント、県平均より5.9ポイント上回っている。 「授業を集中して受けている」と回答した生徒の割合が88.2%で、市平均より3.1ポイント、県平均より2.8ポイント下回っている。
基礎・基本の確実な定着	「宇都宮モデル」を活用し、授業では「本時の目標」を提示し、めあてを達成するための効果的な指導法を工夫している。また、本時の「振り返り」を行い、自分の考えの変容を自覚する活動を行っている。 毎週水曜日をチャレンジデーとして、帰りの会で小テストを行い、間違えた問題のやり直しをするなど、基礎的事項の定着を図っている。	「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」と回答した生徒の割合が97.8%と、市平均より1.6ポイント、県平均より1.1ポイント上回っている。 「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と回答した生徒の割合が87.1%と、市平均より6.9ポイント、県平均より5.7ポイント上回っている。 「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」と回答した生徒の割合が60.3%と、市平均より3.9ポイント、県平均より3.5ポイント下回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度当初に「家庭学習の手引き」と自主学習ノートを配付し、自主学習ノートを毎日提出するように指導している。また、学習だよりでの啓発やベストノートの掲示をすることで、より効果的な学習の仕方について、意識を高められるよう指導している。 定期テスト前に「授業・家庭学習強化週間」を設定し、学習計画表を作成させ、学習時間を意識した家庭学習ができるように指導している。 放課後学習支援「SUGA1学習塾」を計画的に継続して行い、学習習慣を身に付けさせ、意欲的に取り組めるよう指導・支援している。	「家で、学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合が94.4%で、市平均より2.2ポイント、県平均より2.7ポイント上回っている。 「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的回答をした生徒の割合は55.3%で、市平均より4.7ポイント、県平均より1.6ポイント下回っている。 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒の割合が66.4%で、市平均より2.8ポイント、県平均より1.1ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的回答をした生徒の割合は55.3%で、市平均より4.7ポイント、県平均より1.6ポイント下回っている。	自主学習の取り組み方や効果的な学習の仕方について、意識を高める。	「家庭学習の手引き」と自主学習ノートを配付し、自主学習ノートを毎日提出するだけでなく、その内容についても振り返らせる。また、学習だよりでの啓発やベストノートの掲示をする。